

【特別寄稿】 平成 26 年度 医療科学類 学位記授与式 祝辞

医療科学類 学類長 二宮 治彦 教授

本日、筑波大学医学群医療科学類を卒業していく三十七名の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

今日、皆さんは、四年間学んだここ筑波大学を巣立ち、明日からは社会人としての第一歩を踏み出します。四年前、皆さんは医療科学に関する仕事に生涯携わっていきたいという志を胸に、この医療科学類に入学してきました。四年の間には、自分が思い描いていた医療と現実の違いに戸惑ったこともあったかもしれません。修得しなくてはならない知識・技術の多さの前に、呆然(ぼうぜん)としたこともあったかもしれません。しかし、皆さんはその一つ一つを乗り越え、今日、卒業の日を迎えました。その頑張りに心からの敬意と祝意を表したいと思います。

四月からは社会人です。高度で専門的な知識と技術を身に付けた医療人として、それぞれの場所でしっかりと役割を果たしていってくれるものと期待しています。進学してさらに研究を続ける皆さんにも大いに期待しています。

その皆さんに、私は、二つの言葉をはなむけとして贈りたいと思います。今年が国際医療科学専攻からの初めての卒業の年です。Professional(プロフェッショナル)、という言葉と、Amateur(アマチュア)という言葉です。この一見、相反する二つの言葉は共にラテン語に語源をもちます。

「プロフェッショナル」という言葉は皆さんも知っての通り「専門家」という意味ですが、本来の意味は「自分のことを公表する」という意味です。

「自分がいったい何者であるのか、何ができる人間であるかを公に向かって広く宣言する」という事です。人々に知らしめた以上、やるべきことをやらねばなりません。宣言した内容に対しては、常に矜持(きょうじ)をもってあたらねばなりません。「プロフェッショナル」とは、すなわち、自分の仕事に対しての生きる姿勢を示した言葉だということが分かります。皆さんにはその本来の意味において、「プロフェッショナル」であってほしいと思います。

「アマチュア」という言葉は、多くは「しろうと」という意味でつかわれていますが、本来は「好きである」という言葉です。人が、何かを選択するときの最初の基準は、いつの時代もどの分野においても、それが好きであるかどうか、という事です。それに魅力を感じたからこそ、それを選ぶわけです。皆さんが多くくの学問分野から医療科学を選び、学んできたのは、皆さんの中ではその意味で必然だった、つまり魅力を感じたからこそ、今日、皆さんはこの場にいるのではないかと考えられます。

皆さんには、どうか「プロフェッショナル」を追求するとともに、「アマチュア」の心、「初心」といってもいいかもしれません、その心を持ち続けて欲しいと願います。仕事に対しては、常に専門家の知識と真摯な姿勢をもって取り組むとともに、自分がなぜ医療を生涯の仕事とし、科学(サイエンス)を志向したのか、その初心を持ち続けてくださることを願います。

医療、あるいは、科学の世界は驚くべきスピード

で進化し続けています。常に新しい発見があり、医療機器・技術もよりよいものへ向けた創意工夫が続けられています。これから社会に出て働いていると、恐らく自分の知識の足りなさに愕然(がくぜん)とし、仕事を続けることへの不安すら感じる瞬間(しゅんかん)がくると思います。その時は、どうかまた学びにもどってきてください。

皆さんの今後の活躍が母校である医療科学類の評価を高めてくれるとともに、卒業した皆さんにも継続した卒後教育を提供できる存在となるべく、医療科学類は努力を続けます。

人生は、ある意味で生涯尽きることのない学びの連続です。とりわけ、「プロフェッショナル」と呼

ばれる分野においては、生涯、学び続け最新の知識を求め続けることが必須です。皆さんのこれまでの学びが仕事を通じて社会に還元されることは、社会が皆さんに期待している好循環であり、医療の「プロフェッショナル」たる皆さんの誇るべき姿ではないでしょうか。

「アマチュア」のこころを持ち続け、「プロフェッショナル」として社会で活躍してほしい。皆さんが、今後、実り多き人生を歩むこと、また、豊かな社会の建設に大いに貢献することを確信し、卒業する皆さんへのはなむけの言葉といたします



筑波医療科学 第11巻 第2号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2015年4月27日